



本会記事

■広報委員会だより

『小学生のための夏休み自由研究教室』での展示・実演活動

広報委員会では、2008年度から小中学生ならびに保護者を対象とした科学啓発活動に力を入れています。中京圏では、名古屋大学で1月開催される『おもしろ科学教室』へプラズマ・核融合学会も共同主催として参加し、プラズマや核融合に関する展示・実演活動を行っています。関東圏では、8月に開催される日本大学理工学部主催の「小学生のための夏休み自由研究教室」へ本学会も参加し、プラズマ・核融合に関する展示・広報活動を行ってきました。

今年の夏は、プラズマ・核融合学会と核融合エネルギーフォーラム合同という形で日本大学理工学「小学生のための夏休み自由研究教室」に参加し、プラズマ・核融合に関する展示・広報活動を行いました。この「小学生のための夏休み自由研究教室」は、夏休みの自由研究の材料を提供し、広く科学に興味をもってもらうことを目的にした、日本大学理工学部や附属高校の教員による科学・工作教室であります。その会場におきまして本学会のために特別なスペースをご提供いただき、プラズマ・核融合関係に関する展示・広報活動を行いました。今回の展示内容に関しては、日本原子力研究開発機構、核融合科学研究所、日本大学の協力により、人工ダイヤモンドによる氷切断の体験実験、注射器火花放電装置による火花放電の体験、超伝導磁気浮上列車による超伝導現象の実演、プラズマボール展示、さらには広報委員会で作成した小中学生向けプラズマ・核融合学習パンフレットの配布ならびにクイズを実施しました。

展示コーナーでは、イベント開始と同時に多くの親子連れが訪れ、大変盛況でありました。人工ダイヤモンドは、熱伝導が銅の5倍大きいので、手に持って氷を切ることができます。鋭利なものでもないのに氷が切れるのに子どもたちは興味津津でした（写真1）。注射器火花放電装置は注射器を引っぱることで圧力を下げると、火花放電が起こる装置です。子どもたちは、パチパチパチという火花放電を起こすために、注射器を引っぱることに夢中になっていました。超伝導磁気浮上列車は、リニアモーターカーの仕組みを利用して超伝導現象を理解するのにうってつけの展示物です。ここでは、子どものみならず保護者の方々までマイスナー効果とピン止め効果による超伝導現象の虜になっていました（写真2）。プラズマボールでは、触れると寄ってくる光と用意した蛍光灯を近づけると点灯する現象をとっても不思議そうに見ていました。

小中学生向けプラズマ・核融合学習パンフレットとクイズコーナーでは、クイズに全問正解した場合にはスタンプを押すことにしたのですが、それをめざして親子一緒に

なって学習パンフレットを読んでクイズの正解を探しておりこちらも盛況でした（写真3）。

最終的なイベント参加者は、小学生121名・保護者を含めると総勢250名近くなりました。本学会の展示ブースも一時は人集りができるほど盛況で、成功裡に終わることができました。本イベントへの本学会の参加にご協力いただきました、三浦 光先生、浅井朋彦先生、渡部政行先生をはじめとする日大理工学部スタッフの皆様には大変感謝いたします。小中学生向けパンフレットとクイズコーナーでは、小中学生対応として日大3年の郷田さん、平井さんに、



写真1 人工ダイヤモンドによる氷切断体験コーナー。



写真2 超伝導磁気浮上列車実演コーナー。



写真3 小中学生向け学習パンフレットとクイズコーナー。

展示コーナーでのスタッフとして日大修士の西村さんにご協力いただきました。またイベント当日の展示品については、日本原子力研究開発機構、核融合科学研究所、日本大学に協力をいただきました。記して謝意を表します。本イベント開催までの準備と当日の説明対応には、プラズマ・核融合学会広報委員会から、坂本慶司広報委員長、中村幸男常務理事、畑山明聖広報委員、浅井明彦委員、柏木美恵子委員、日渡委員さらに、下記「高校生シンポジウム」の代表世話人である元理事の堀岡一彦先生（東工大）、事務局から杉山恵子さん、核融合エネルギーフォーラムからは社会と核融合クラスター世話人の小川雄一先生（東大）があたりました（写真4）。

今回は、プラズマ・核融合学会と核融合エネルギーフォーラム“社会と核融合クラスター”合同でプラズマ・核融合に関する広報活動を実施しました。今後、小・中学生への広報活動を全国に展開していくためにも、今回のような関係団体との協力は重要になってくると思います。また、今年の10月に東京工業大学で開催が予定されているプラズマ・核融合学会主催の「高校生シンポジウム」の案内



写真4 参加スタッフ一同。

パンフレットも会場で配布しました。今回のような形態の広報活動を広く全国で継続・展開していくことで、小・中学生はもちろん、一般の方に、プラズマ、核融合の意義や本学会の活動を広く理解していただく機会を増やしたいと考えています。（本学会広報委員 日渡良爾）